

地理空間情報産学官連携協議会
共通的な基盤技術に関する研究開発ワーキンググループ(第3回)
議事概要

1. 日時

平成21年 2月26日(木) 10時00分～12時00分

2. 場所

中央合同庁舎第 4号館 1階 共用123会議室

3. 出席者(敬称略)

<産>

衛星測位システム協議会

○(財)衛星測位利用推進センター

(特)国土空間データ基盤推進協議会

gコンテンツ流通推進協議会

スペーシャリストの会

(社)全国測量設計業協会連合会

(財)日本情報処理開発協会

(社)日本測量協会

(財)日本測量調査技術協会

(社)日本地図調製業協会

<学>

東京大学・空間情報科学研究センター 有川 正俊

東京大学・大学院情報学環学際情報学府 池内 克史

東京海洋大学 海老沼 拓史

○東京大学・空間情報科学研究センター 柴崎 亮介

東京大学・空間情報科学研究センター 瀬崎 薫

東京大学・空間情報科学研究センター 山田 晴利

<官>

内閣官房副長官補(内政・外政)付

○国土交通省国土計画局

○国土交通省国土地理院

○内閣府政策統括官(科学技術政策・イノベーション)付

内閣府政策統括官(防災)付

警察庁科学警察研究所

総務省情報通信国際戦略局

文部科学省研究開発局

農林水産省農林水産技術会議事務局

経済産業省商務情報政策局

国土交通省大臣官房

国土交通省海上保安庁海洋情報部

環境省総合環境政策局

○ 幹事

4. 議事次第

- (1) 開会
- (2) 議事

- ① 専門家からの情報提供(講演)

- 「仮想化都市空間」

- 東京大学 大学院情報学環学際情報学府 池内 克史教授

- 「高度デジタル道路地図と位置情報の授受について」

- (社)日本地図調製業協会 飯塚 新真氏・(財)日本デジタル道路地図協会 谷口 公氏

- ② 地理空間情報活用に係るアンケート調査結果のまとめについて

- (3) 閉会

5. 議事及び主な発言内容

- (1) 議事①(専門家からの情報提供(講演))

- 「仮想化都市空間」について、東京大学 池内教授より資料1を用いてご講演を頂いた。

- 「高度デジタル道路地図と位置情報の授受について」について、(社)日本地図調製業協会 飯塚 新真氏・(財)日本デジタル道路地図協会 谷口 公氏より資料2を用いてご講演を頂いた。

- 質疑応答

- ・(東大 山田特任教授)資料2でご提案のあった「道路を基準とした位置参照技術の開発・基盤の整備」については、ISO TC211 の標準化に向けた作業の中で検討されている。これは道路に限らず、バス、鉄道、パイプラインなどの線形構造物に対して位置参照を行うものである。まだ WG ドラフトの段階であり反映可能だと思うので、こちらとの協調を図ってはどうか。

- ・(東大 柴崎センター長)地方自治体における工事の入札情報などは、住居表示と地番が混在しており、また自治体の数も多いので、非常に探にくいのが現状である。まず民間サイドではこれらのウェブ情報を利用して道路更新にどのくらい使えるかを検討する取組は行われているか？また、官側においては、地図上で住居表示と地番の表示を容易にするための仕組みを検討する予定は無いのか？

- (日本デジタル道路地図協会 谷口氏)現状は全国の自治体 1800 箇所の HP を全てチェックしており、統一的に表現することはやっていない。また、自治体が全て HP に更新しているとは限らず、調べるのが大変。

- ・(国土交通省 大臣官房)先ほどの住居表示と地番の質問についてであるが、道路工事のための用地測量を行うにあたり、地籍簿や測量結果の登記などは、全て地番を基本としており、入札情報も地番表示になっているものと思われる。地番は法務局で管理されており、住居表示との統一は難しい。

- (東大 柴崎センター長)必ずしも統一化を図る必要は無く、同じ地図上で表現できれば良いと考える。数年前、地番と住居表示を地図上で重ねることの問題調査を行ったはずだが、その結果はどう活用されたのか？地番を地図化する取組はなされていないのか？

- (国土交通省 大臣官房)別途調査の上、回答する。

- (2) 議事②(地理空間情報活用に係るアンケート調査結果のまとめについて)

- 学側幹事 東大 柴崎センター長より資料3-1について、官側幹事 国土交通省国土計画局大野参事官より資料3-2について説明。

- 質疑応答

- ・(東京海洋大学 海老沼准教授)今回の資料では、研究開発すべき技術と、今後重要と思われるアプリケーションの 2 つの軸で書かれているが、今後の研究開発マップをまとめるにあたり、どちらの方向性を重視するのか。

- (東大 柴崎センター長)本ワーキンググループとしては、共通基盤の研究開発をスコープとしており、技術の方向性で整理する。ただし、技術開発だけでは何のために利用されるのかが分からないので、アプリケーションについてもあわせて考えておく必要がある。

◎資料3-2に従って今後の作業を行う事が了承された。

(3) その他

○意見交換

- ・(東京海洋大学 海老沼准教授)今回まとめられたアプリケーションは国内利用が中心であったが、アジア等他の地域でも今後同様の問題が起こる事が予想される。日本で開発された技術をもとに海外との協力をテーマとして取り上げる事を提案したい。
→(国土交通省 国土計画局 大野参事官)重要なテーマであると考えが、本 WG において想定している今年度の作業の中では取り扱う事が難しい。来年度以降の取組の可能性として検討したい。
- (東大 柴崎センター長)国内の情報基盤や更新を前提とした技術は、海外への展開が難しいので注意が必要である。基本骨格を国が構築する事は必要だが、共通的な基盤技術を考えるに当たっては、基盤整備における政府の支援が無くても、ユーザーが増える事により自動的に情報が更新される仕組みを考えておく事も重要である。
- ・(東京大学 池内教授)日本の携帯電話はガラパゴス化していると言われる。地図情報も同様で、日本に特化した高級なシステムにしてしまうと海外へ展開する事は容易ではない。インフラライトで、ユーザー参加型のシステムを考え、デファクト化とすることが必要。同様に、日本のインフラヘビーの VICS は海外展開しづらい面があるが、タクシープローブ情報による交通情報提供のようなものが普及しはじめている。こういった方向を考えると、地図情報、交通情報などは、ユーザー参加型のシステムを考えるべきで、そのため、車に搭載されている GPS や複数のカメラ情報などを統合する技術等が有効なのではないか。
→(東大 柴崎センター長)車も 1 台の情報だけで無く、周囲にある複数の車からの情報を統合する事が重要。そうでないと、渋滞で停まっているのか、コンビニに立ち寄っているのか等、本当の状況が分からない。

◎次回は、3 月末～4 月を予定(別途事務局より連絡)。

以上